

富山県有峰地域におけるモグラ科2種の記録

石田寛明¹⁾・宮本秋津^{1), 2)}・藤重 健^{1), 3)}・安田 晓¹⁾・横畠泰志⁴⁾

¹⁾富山大学大学院理工学教育部

〒930-8555 富山市五福3190

²⁾現所属：環境計測株式会社

〒612-8419 京都市伏見区竹田北三ツ杭町84

³⁾現所属：有限会社レイ

〒678-1261 兵庫県赤穂郡上郡町旭日丙449-15

⁴⁾富山大学大学院理工学研究部

〒930-8555 富山市五福3190

Records of two species of Talpidae in Arimine Area, Toyama Prefecture, Japan

Hiroaki Ishida¹⁾, Akitsu Miyamoto^{1), 2)}, Ken Fujishige^{1), 3)}, Akira Yasuda^{1), 2)}
and Yasushi Yokohata⁴⁾

¹⁾Graduate School of Science and Engineering for Education, University of Toyama, 3190 Gofuku,
Toyama-shi, Toyama 930-8555, Japan

²⁾Present address: Eco Analysis Corporation, 84 Kita-Mitsugui-cho, Takeda, Fushimi-ku, Kyoto-shi,
Kyoto 612-8419, Japan

³⁾Present address: Rei Co. Ltd., Asahihei 449-15, Kamigouri-cho, Akou-gun, Hyogo Prefecture 678-
1261, Japan

⁴⁾Graduate School of Science and Engineering for Research, University of Toyama, 3190 Gofuku,
Toyama-shi, Toyama 930-8555, Japan

要約

2011年に富山市有峰地域において、わなを用いてモグラ類の生息調査を行った。10月にミズラモグラ *Euroscaptor mizura* 1個体が捕獲され、この地域で17年ぶりの記録となった。他にアズマモグラ *Mogera imaizumii* 3個体が捕獲された。

はじめに

ミズラモグラ *Euroscaptor mizura* はトガリネズミ形目モグラ科ミズラモグラ属のモグラである。優占種であるアズマモグラやコウベモグラより小型で、低山帯から高山帯までの森林に生息する(阿部他2005)。富山県では過去にミズラモグラの生息が確認されている(植木1964; 富山県自然保護課1977, 1980; 山本1996; 白石ら2003, 2004, 2005, 2007; 富山県2012)。ミズラモグラは環境省(2014)レッドリストでは準絶滅危惧種、富山県(2012)では希少種とされているため、将来的な保全を考えると更なる調査が必要である。そこ

で今回、富山県レッドリストの改訂に際し、過去にミズラモグラが確認されており、県内でも自然に富んでいる富山市有峰地域において、本種の生息調査を行った。また、ミズラモグラの生息しているのは山岳地帯であり、岩石が多くモグラにとって良好な生息場所が限られる。さらに有峰地域では過去にアズマモグラ *Mogera imaizumii* も確認されており(山本1996)、生態の類似するミズラモグラとの競合が考えられるため、今回はアズマモグラも報告の対象に含めた。

方法

調査は2011年6月~11月に行った。相良(1998)によるミズラモグラの坑道の横径28–45mm、縦径24–41mmの値を参考にし、調査場所は特にこの範囲の坑道が多く、道を横切るように地表近くにモグラのトンネルがあり比較的罠を仕掛けやすかった冷々谷遊歩道を選んだ。一度の捕獲にはDuffus式捕殺わな18個、または深さ18cmの墜落

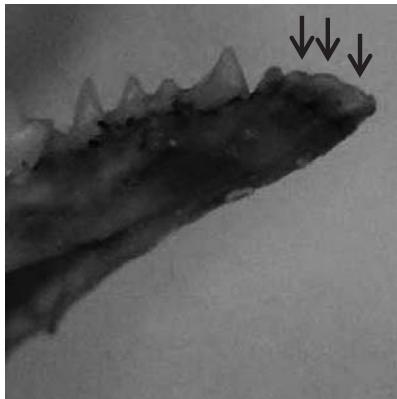


図1 ミズラモグラの下顎骨前部
矢印は切歯



図2 有峰で捕えたミズラモグラ
上のペンの長さは14cm

函6～9個を仕掛けた。捕獲に当たっては、富山県知事より鳥獣の保護および狩猟の適正化に関する法律第9条第3項に基づく学術捕獲の許可を得た。

また、モグラを捕えたトンネルでは横径と縦径を測定した。さらに捕まえたモグラの全長、頭胴長、尾長、尾率、前足長（爪有と爪無）、手掌幅、後足長（爪有と爪無）、体重を計測した。アズマモグラの下顎の切歯は2対あるが、ミズラモグラでは3対であるため（阿部1998；阿部他2005、図1）、その切歯数を数え、モグラ2種を鑑別した。捕獲地点の緯度と経度をウェブ地図上で計測し、環境省自然環境基礎調査による現地の植生図（URL：<http://www.vegetation.biodic.go.jp/data/25000veg/jpeg/543753.jpg>、2016年1月13日最終確認）から現地の植生を把握した。

結果および考察

ミズラモグラは10月に1個体のみ捕えた（図1、2、表1）。このミズラモグラの坑道の径は横径40mm、縦径35mmであり、相良（1998）の値の範囲内であった。有峰地域でのミズラモグラの確認は山本（1996）の1994年から17年ぶりとなった。アズマモグラは7月に1個体、9月に1個体、10月に1個体の計3個体を捕えた（表）。7月に捕獲した個体の坑道の径は横径3.5cm、縦径3.0cmだった。9月、10月の2個体は同じ場所で捕獲し、坑道の径は横径3.9cm、縦径3.0cmであった。捕獲地点はいずれも標高1150m前後、植生はオオバクロモジーミズナラ群集であった。これら4個体の測定値を表1に示す。アズマモグラは、阿部他（2005）では頭胴長121～159mmとされているが、今回得られた3個体のうち2個体はそれより小さかった。

表1 本調査で得られたミズラモグラおよびアズマモグラの計測値と採集日、採集地点
単位の表示のない測定値の単位はmm

種	性	全長	頭胴長	尾長	尾率 (%)	前足長 (爪有)	前足長 (爪無)	手掌幅	後足長 (爪有)	後足長 (爪無)	体重 (g)	採集日	捕獲地点の緯度経度	
													緯度	経度
ミズラモグラ	雄	112.4	90.4	22	24.3	15.9	12.3	10.9	14.9	13.3	24.8	10月8日	N36°28'17.98"	E137°25'54.13"
アズマモグラ	雌	139	126.2	12.8	10.1	18.1	12.7	14.3	15.9	13.9	52.9	7月13日	N36°28'19.54"	E137°25'54.09"
同上	不明	120.9	102.4	18.5	18.1	20.9	15.3	15	18	15.4	47.4	9月27日	N36°28'17.38"	E137°25'54.09"
同上	不明	125.7	108.2	17.5	16.2	21.3	14.7	14.2	18.6	16.2	50.5	10月6日	N36°28'17.38"	E137°25'54.84"

これまでの富山県内でのミズラモグラの記録には、有峰（山本1996）の他に立山下ノ小平～室堂平（植木1964；富山県自然保護課1977, 1980；村井ら2003, 2004, 2005）、浄土沢（富山県自然保護課1977, 1980）、雪倉岳（植木1964）、奥大日岳（植木1964；富山県自然保護課1977, 1980）、大日岳（村井ら2006）がある。これらには、積極的にわなで捕獲した例は見当たらず、死体の拾得によるものに限られるようである。Kawada（2005）は拾得標本に大きく依存したモグラ類の研究は（分散中の若齢個体が多くなると考えられるので）齢の偏りが生じるおそれがあることなどから誤った結論を導くおそれがあるとしている。今後は生態学的知見のほとんどないミズラモグラの生態解明のためにも、富山県内においても、より積極的な捕獲による調査が行われることが望ましい。

謝辞

本調査を行うに当たり、ご協力いただいた富山県生活環境文化部自然保護課と有峰森林文化村の職員の方々、富山大学理学部野生動物保全学研究室の皆様に厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 阿部永. 1998. モグラ科の分類・形態. (阿部永・横畠泰志編) 食虫類の自然史. pp.25-58. 比婆科学教育振興会, 庄原.
- 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎吾・米田政明. 2005. 日本の哺乳類改訂版. 東海大学出版会, 秦野. 206pp.
- 環境省. 2014. レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生動物－1 哺乳類. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京. 132pp.
- Kawada S. 2005. The historical notes and taxonomic problems of East Asian moles, *Euroscaptor*, *Parascaptor* and *Scaptochirus*, of continental Asia (Insectivora, Talpidae). Mamm. Study 30: S5-S11.
- 村井仁志・白石俊明・間宮寿頼・南部久男・岡圭一・西岡満・神保美和子・森大輔. 2003. 富山県における哺乳類の記録(2002年). 富山の生物. 42: 27-37.
- 村井仁志・西岡満・白石俊明・神保美和子・森大輔・南部久男・岡圭一・間宮寿頼. 2004. 富山県における哺乳類の記録(2003年). 富山の生物. 43: 1-8.
- 村井仁志・間宮寿頼・南部久男・岡圭一・西岡満・白石俊明・見浦沙耶子・細川美和子・森大輔. 2005. 富山県における哺乳類の記録(2004年). 富山の生物. 44: 63-72.
- 村井仁志・南部久男・後藤優介・森大輔・西岡満・内呂由美子・加藤智樹・間宮寿頼・見浦沙耶子・細川美和子・岡圭一・白石俊明. 2007. 富山県における哺乳類の記録(2006年). 富山の生物. 46: 15-20.
- 相良直彦. 1998. キノコを手掛かりとしたモグラ類の営巣生態の調査法. 哺乳類科学. 38: 271-292.
- 富山県. 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生動物－レッドラーデータブックとやま2012－. 富山県生活環境文化部自然保護課, 富山. 451pp.
- 富山県自然保護課. 1977. とやまの野生鳥獣. 富山県, 富山. 147pp.
- 富山県自然保護課. 1980. 富山県の鳥獣. 富山県, 富山. 242pp.
- 植木忠夫. 1964. 立山山系とその周辺地域(TKA 地域)の小哺乳類および有尾両生類. (富山大学学術調査団編) 北アルプスの自然. pp.193-204. 富山大学学術調査団, 富山市.
- 山本茂行. 1996. 有峰の哺乳類. 成願寺川流域(有峰地域)自然環境調査報告. pp.299-307. 富山市科学文化センター, 富山市.